



## 写真で「事実」を表現する

写真は、その瞬間の「事実」を「写す」ものです。

しかし、写真に「写っているもの」は、撮影者が選び取った人物や事物、場面であり、写す角度や構図なども撮影者が意図したものです。

写真はいわば、撮影者によって作られた「事実」といえます。

一方、写真は見る人によっても、捉え方が異なります。「写っているもの」のどこに注目するか。「写っていないもの」をどのように想像するか。言葉や文を読んで内容を考えるように、写真を見ることで考えられることもあります。

写真は、どのような見方ができるのか考えてみましょう。



■写真を見る観点

- ・人物（表情、動作、服装、姿勢など）
- ・事物や背景
- ・場所
- ・時間、空間
- ・構図（対象を捉えている角度、対象との距離、人物や事物の組み合わせなど）

この写真を観点にそって見てみよう。  
乗り物に乗った子どもが二人、中心に写っているね。周辺にも多くの人がいる。場所はどこかな。





何を切り取るか



写真に収められるのは、その場面全体の一部や、ある一瞬の時間だけだ。  
何を撮りたいか、どのように撮りたいかは、撮影者が判断することになるね。  
撮った写真を意図や目的に応じて加工することもあるよ。



上の二組みの写真は、それぞれ同じ場面や同じ場所を撮影したものです。  
どちらも、撮影者は何かを切り取っています。  
何を切り取っているか、考えましょう。

- ・ 場面や場所
- ・ 時間
- ・ 対象となる物
- など

写真を撮るときには、撮影者が撮りたいと考えるなんらかの意図や目的があります。

- ・ 何に興味をひかれたのか。
- ・ 誰だれに見せたいのか。
- ・ 写真を何に使うのか。

相手や目的に応じて、撮り方は変わります。



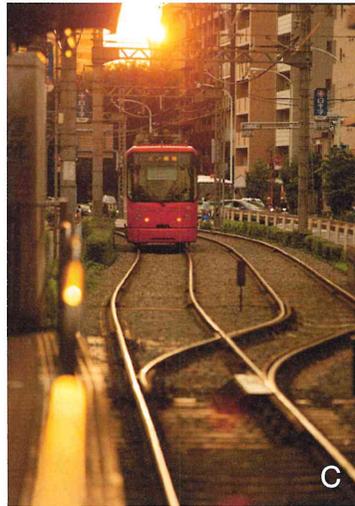
題名

同じ写真でも題名が違うと、写真の見え方はどう変わるかな。



- ①「写真を見る観点」(P 68)を参考に、写真に含まれる情報を読みましよう。
- ②上の写真を見て次のことを書き出しましょう。
  - ・写っている人や物。
  - ・写っている人が話していること。
  - ・それぞれ、写真のどこに注目して、どのように考えたか。
- ③書き出したことをもとに、この写真の題名を考えましよう。そして、発表して、題名の言葉と写真の見え方の関係について話し合いましよう。

写真を組み合わせる順序を考える



振り返り☑

- 文章や画像などに表されている情報と情報の関係を捉えているか。
- 写真に表されている情報を読み取り、それをもとに言葉や文章に表そうとしているか。
- 編集という観点をもって、身のまわりのさまざまな情報を捉えよう。

同じ写真でも、組み合わせ方を變えると、全く違う物語ができる。  
写真に写っている「事実」も、そこでは違った見方をされていることになるね。



- ① 上のAからDの四枚の写真から、どのような情報が読み取れるでしょうか。それぞれ書き出しましょう。
- ② 四枚の写真の全てを自由に組み合わせ、短い物語を考えて、書きましょう。考えるときには、①で書き出したことをもとにしましょう。